

- 秋田県生涯学習・社会教育研究大会(記念大会)
 □ 家庭教育の悩みや不安について(家庭教育に関する調査から)
 □ 家庭教育支援指導者等研修 □ 高村光太郎「少年に与ふ」

秋田県生涯学習センター(編集:社会教育アドバイザー)

秋田県生涯学習・社会教育研究大会「記念大会」

11月13日(金) 秋田県生涯学習センター及び各サテライト会場

例年多数の参加者で盛り上がる本研究大会は、今年度、「秋田県生涯教育研究プロジェクトチーム」設置50周年、「秋田県市町村生涯教育奨励員協議会」結成45周年、「秋田県生涯教育センター」開所40周年の節目となる記念大会となりました。

新型コロナウイルスの感染拡大により、今回の研究大会は、「You Tube」を活用したオンライン方式で開催されました。当日は、当センター、サテライト会場(県内29箇所)及び個人視聴者等520人の参加となりましたが、閉会直後から多くの感想や意見が寄せられるなど大きな反響がありました。

記念式典



秋田県生涯学習推進本部長の佐竹敬久秋田県知事からは、「県政三本柱として積極的に推進してきた本県の生涯学習は、社会情勢に対応すべく先進的な取組として高い評価を得てきたが、現代にあっても地域活性化、学びの場の拡充、人づくり等に関わる重要な取組となっている。本県がこれまで培ってきた生涯学習の伝統と成果は、今後も秋田の力となる。」との式辞がありました。

続いて、秋田県教育委員会安田浩幸教育長及び秋田県生涯学習奨励員協議会森田千枝子会長の挨拶、秋田県民歌演奏があり大会がスタートしました。

記念鼎談

大会のメインとなる記念鼎談では、岩手大学新妻二男名誉教授、秋田大学原義彦教授、東北大学佐藤智子准教授の3氏が、テーマ「持続可能な地域づくりに向けて」について語り合いました。



記念鼎談講師(左から)

岩手大 新妻二男 氏

秋田大 原義彦 氏

東北大 佐藤智子 氏

「つながりは、居場所で人が生き、生かされるプロセスであり、基本としてのコミュニケーションや連携・協働に関する当事者意識が大切」、「知を活用する知力へのプロセスが持続可能な正体」、「公民は、自分と他者(社会)との関係」、「何のために生きるのか、何をしようとしているのかの共有が必要」、「今私たちのやることが未来を創る」等々、示唆に富む多くの提言がありました。

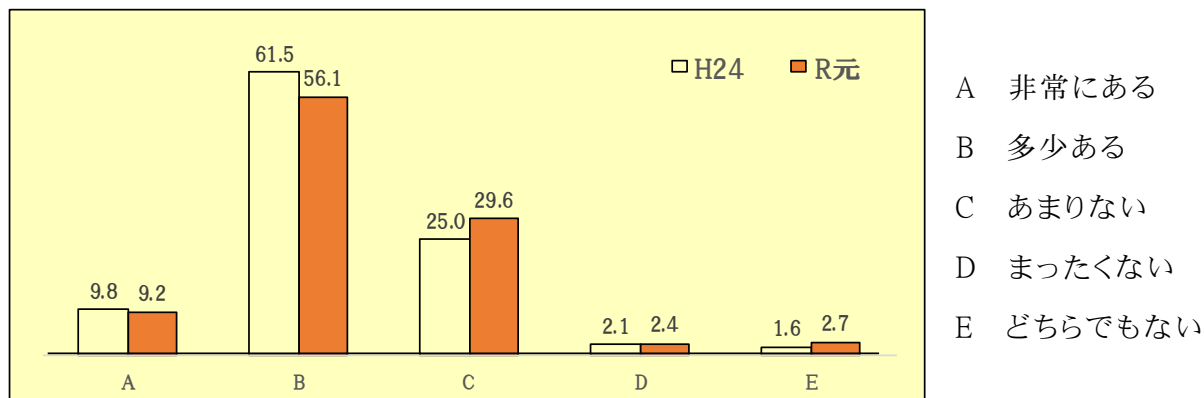
閉会行事

閉会行事では、当センター鈴木修一所長が「行けど行けど果てしも見えぬ花野かな」の句を引用し、先人の熱量、温もりを引き継いで、さらなる生涯学習の豊かさを創り出す必要性を語りかけました。

秋田県教育委員会では、家庭教育の状況及び保護者の意識や実態を把握するため、令和元年度に家庭教育に関する調査を実施しました。今回は、平成24年度調査と比較しながらまとめたリーフレット「グラフでみる秋田の家庭教育」から、悩みや不安に関わる項目を一部抜粋して紹介します。

【リーフレットの詳細は、当センターのホームページをご覧ください。】

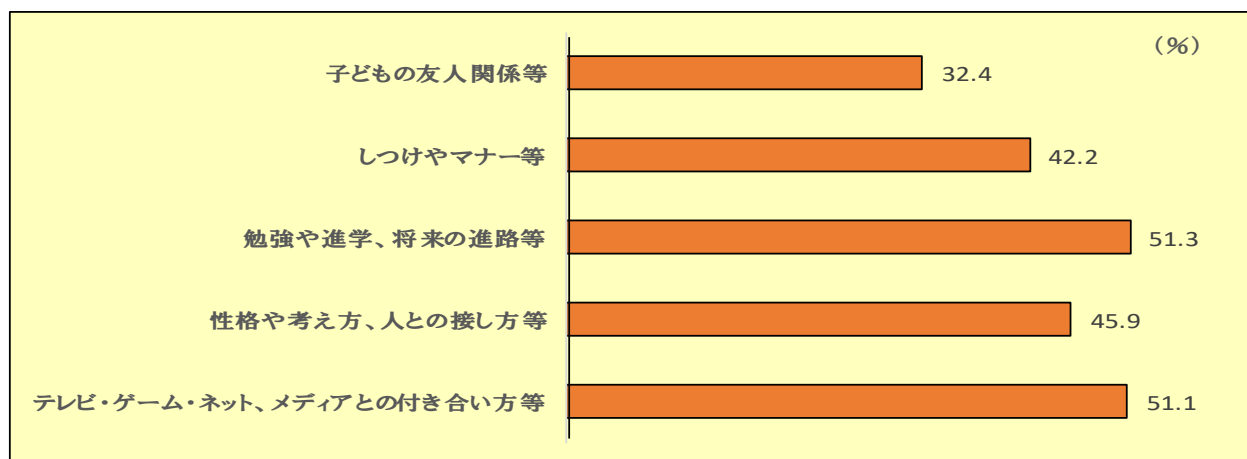
問 あなたは家庭での教育（しつけ等）について、悩みや不安がありますか。



! A「非常にある」+ B「多少ある」= 65.3% ▶ H24 (71.3%) 比 6%減
減少はしているが、前回同様多くの保護者が悩みや不安などを抱えていることが分かる。

(参考) ▶ 「子育てについて我慢することがたくさんある」 66% ▶ H24 (60%) 比 6%増

問 どのような悩みや不安がありますか。（複数回答）▶令和元年度の上位5項目



! テレビ・ゲーム・ネット、メディアとの付き合い方等 51.1% ▶ H24 (20.1%) 比 31%増
ネットなどとの付き合い方等の増加が著しい。他の項目の増減に大きな変化はない。

(参考) ▶ 子どもを取り巻く環境「よくない」理由（複数回答）

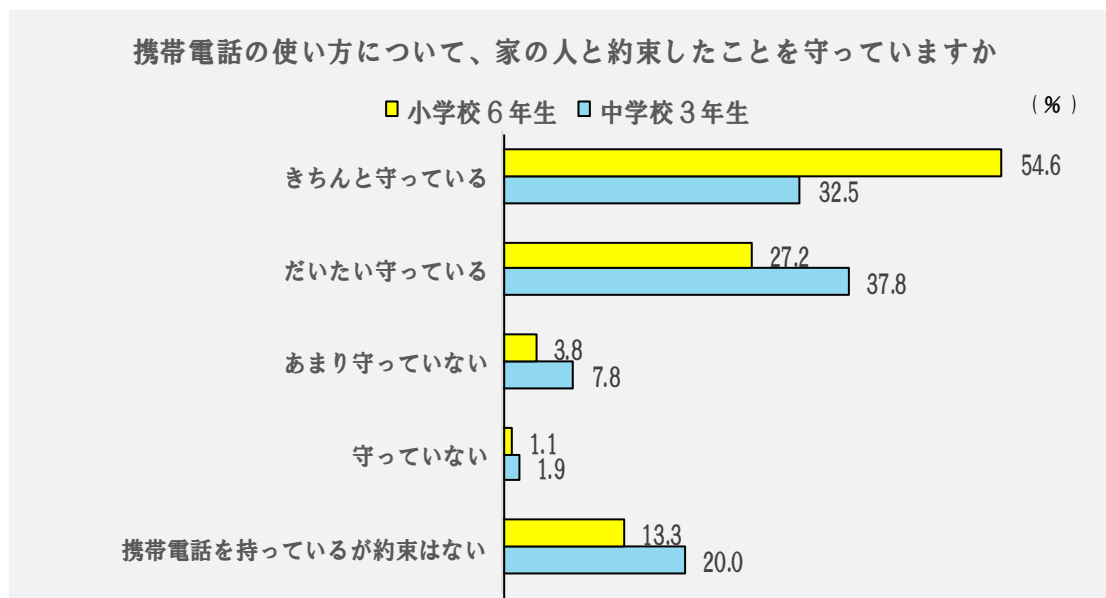
「ネットによる有害情報やネット犯罪の危機」 64.2% ▶ H24 (51.0%) 比 13.2%増

▶ 家庭教育力低下の理由（複数回答）

「テレビ・ゲーム・ネットなどの影響」 68.3% ▶ H24 (35.5%) 比 32.8%増

今回の調査は、昨今のネット事情が家庭教育においても今日的課題として顕在化していることを示しています。特に、スマホについては、未就学児や小中学生への普及が進む中、スマホ所持の低年齢化に対応できる具体的なスキルに関する保護者の悩みや不安が増幅しているようです。

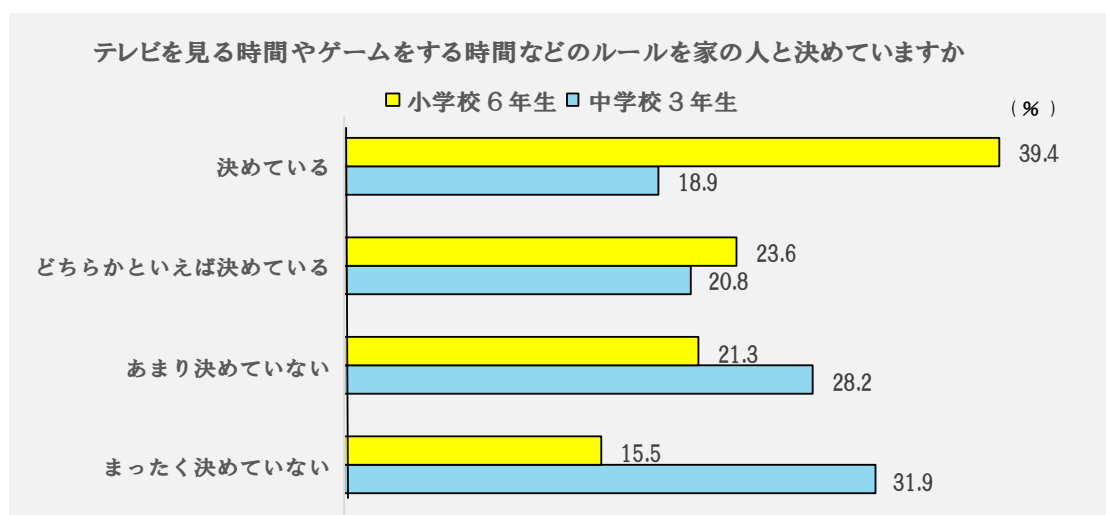
ところで、次の図は、「平成29年度全国学力・学習状況調査児童生徒に対する質問紙調査(文部科学省)」における秋田県の小6と中3の回答をグラフにしたものです。



(注 調査人数から「携帯電話を持っていない」の回答数を除いた数を分母にして各選択肢の回答割合を再計算)

守るか否かに関するノウハウには、各家庭の事情に即した個々具体の成果と課題があると認識しています。しかし、このグラフで危惧すべきは、そもそも約束そのものがないと答える子どもの実態(小6 13.3%、中3 20.0%)であり、家庭教育の在り方にも深く関わることとして軽視できません。

併せて参考にしたのが、「ルール決め」に関する本県児童生徒の回答を集計した次のグラフです。



小6は「決めている」が「まったく決めていない」の約2.5倍で、中3は逆に「まったく決めていない」が「決めている」の約1.7倍です。小6と中3のグラフの様相(昇順・降順)もまったく対照的です。

本県の児童生徒のスマホデビューは、秋田県総合教育センターの調査によると、中学校と高等学校の入学時における急増傾向が顕著とのデータがありますから、中3の「決めていない(あまり+まったく)」の数値60.1%は気になるところです。

急変するネット社会に対応する家庭教育の在り方については、保護者に加えて、子ども、学校・地域の関係者等の多様な“視角”も検証の資料とし、多角的、複眼的に考えていく必要があります。



秋田県教育委員会では、すべての保護者が安心して家庭教育を行うことができるよう、地域人材を中心としたチームで家庭教育を支援する「家庭教育支援チーム」の設置を推進しています。

本研修は、市町村における「家庭教育支援チーム」のリーダーとサポーターを養成する目的で毎年開催されています。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響から研修回数を4回に精選して実施しましたが、このたび全研修が終了しました。ここでは、第4回の講師とテーマを紹介します。

【4回にわたる研修の詳細は、当センターのホームページ「研修実施レポート」をご覧ください。】

「福祉部局との連携による支援体制の充実」

秋田市子ども未来センター 主席主査 小原知子 氏



「家庭教育支援を充実させるネットワークの構築」

岩手県教育委員会事務局中部教育事務所 主任社会教育主事 秋澤美加子 氏

七色

彫刻家であり詩人でもある高村光太郎は、53歳の時に次の詩をつくっています◆少年たちと小父さんとの何も飾らない日常の一コマには、教育の根幹にあるべきもののヒントや令和の時代が標榜する社会教育の原風景があるように思えてなりません。

少年に与ふ

この小父さんはぶきようで / 少年の声いろがまづいから、
うまい文句やかはゆい唄で / みんなをうれしがらせるわけにはゆかない。
そこでお説教を一つやると為よう。 / みんな集つてほん気できけよ。
まづ第一に毎朝起きたら/あの高い天を見たまへ。 / お天気なら太陽、雨なら雲のゐる処だ。
あそこがみんなの命のもとだ。 / いつでもみんなを見てゐてくれるお先祖様だ。
あの天のやうに行動する、 / これがそもそも第一課だ。
えらい人や名高い人にならうとは決してするな。
持って生まれたものを深くさぐつて強く引き出す人になるんだ。
天からうけたものを天にむくいる人になるんだ。 / それが自然と此の世の役に立つ。
窓の前のバラの新芽を吹いている風が、 / ほら、小父さんの言ふ通りだといつてゐる。

(注 詩は「高村光太郎全集(筑摩書房)」から引用し、一部常用漢字に改めました。)

おそらくはいたずら盛りなのであろう少年たちが、近所の小父さんの話に耳を傾けじっと聞き入っている…、そんな心和む懐かしい光景が目には浮かんできます。「持つて生まれたものを深くさぐつて強く引き出す人になるんだ」と説教する小父さんの姿に、少年たちは目を輝かせ小さな心を奮わせたに違いありません◆「持つて生まれたもの」は、どの人にも生来内在する無限の可能性であり、「深くさぐつて強く引き出す」ことで、その人なりの強い心組みになるのだと思います。そして、そこには、幅広い人間関係、豊かな体験、書物や恩師との出会い、身近な人からの影響等々、人の心の内なるものを揺さぶり続ける極めて日常的な「学び」が息づいているような気がします。「持つて生まれたものを深くさぐつて強く引き出す」とは、まさに生きる力の創出そのものなのかも知れません◆詩中の小父さんと少年をつなぐものは何か…。まだ答えの出せない時代ではないはずです。

※ 新型コロナウイルス感染予防のため、所外取材(「訪問インタビューシリーズ」、「虹さんぽ」)は休載しました。